

平成29年 第14回香芝市教育委員会会議(12月定例)会議録

日時 平成29年12月21日(木)
午前9時30分より
場所 香芝市役所5階 委員会室

〔出席者〕

教育長 廣瀬 裕司
委員(教育長職務代理者) 中木 秀一
委員 田中 貴治
委員 石原田 明美
委員 三岡 正美

〔欠席者〕

なし

〔事務局〕

教育部長 村中 義男
教育部次長 福森 るり
教育総務課長 楠本 視和
学校教育課長 上谷 基博
こども課長 澤 和七
生涯学習課長(青少年センター所長兼任) 隈崎 倫夫
市民図書館長 仲西 靖子

〔書記〕

教育総務課副主幹 松田 陽介

日程1 定足数の確認

日程2 開会の宣言

教育長 公私とも大変お忙しいなかご参集いただきまして、皆様ありがとうございます。定足数に達しておりますので、これより平成29年第14回教育委員会会議(12月定例)を開会いたします。

日程3 署名委員の指名について

教育長 署名委員は、田中委員と三岡委員にお願いいたします。

教育長 前回会議録につきましては、委員の皆様方にその写しを配布いたしております。また、すでに署名委員のご署名をいただいておりますので、前回会議録の朗読につきましては、会議の円滑な進行を図るため省略したいと思いますが、ご異議ございませんか。

各委員 (「異議なし」の声あり)

教育長 異議がないということで、前回会議録の朗読を省略いたします。

日程4 教育長の諸報告

教育長 では、日程に基づきまして、私の動静についてご報告させていただきます。

教育長 前回11月15日の第13回教育委員会会議以降の私の動静についてご報告させていただきます。

16日の木曜日は、真美ヶ丘西小学校が本年創立30周年を迎えます。その記念式典に出席させていただきました。三岡議員のほうも出席いただいたと思います。30年の重みと言いますか、大変すばらしい式典だったと思います。

翌17日の金曜日は、奈良県市町村教育委員会連合会役員会、研修大会が生駒市のコミュニティセンターでございました。田中委員にもご出席いただきました。そのなかで講演といたしまして、生駒の伝統工芸士でございます久保左文さんに、「茶道とともに生まれた茶釜」という演題でご講演いただきました。生駒の高山は茶釜が本場なんですけれども、そこで活躍いただいている久保さんのお話でございました。なお、この奈良県市町村教育委員会連合会の研修大会は来年度香芝市になっております。11月頃を目処に内容等について検討していきたいと思っておりますので、委員の皆様におかれましてもご意見等ございましたらお願いしたいと思っております。

18日の土曜日は、第3回になります香芝市教育の日でございました。委員の皆様におかれましてもそれぞれの幼稚園、こども園、小学校、中学校

に行っていたかと思えます。なお、本年度は延べ人数でございますけれども、この教育の日にご参加いただいた市民の方は28,791人で、非常に多くの方がこの教育の日に参加していただいております。本来の目的であります市民の方に、幼稚園、学校を見ていただいて、市民の方にいろいろなお協力、ご理解をいただくというのが趣旨でございます。来年もっともっと多くの方が園、学校のほうにご出席いただいてご意見頂戴できたらと思えます。各学校におかれても大変アイデアに富んだ授業を組んでいただきました。感謝申し上げます。なお、本年度は、中学校は以前からそうなんですけれども、小学校におきましても香芝検定のほうを多くの学校で行っていただいております。香芝市のことについていろいろと知る。そういった検定が行われております。

19日の日曜日は、ガールスカウトの創立50周年奈良県記念大会がございました。出席させていただきました。

20日の月曜日は、教育の日にもあったんですけれどもその日に行けませんでしたので、香芝市内の幼稚園、こども園の絵画展、これは公立、私立を合わせてなんですけれども、公民館で行われておりましたので、そちらのほうを見させていただきました。非常にすばらしい作品が展示されていたように思います。

21日の火曜日は、教頭会がございました。教育の日の礼、あるいはまた学校訪問の礼も併せてさせていただきましたとともに、年末になりますので、特に子どもたちに事故のないようにといった話もさせていただきました。

24日の金曜日は、25日が土曜日でございましたので、1日繰り上げたニコニコあいさつ運動を行わせていただきました。私は当日香芝西中学校に行かせていただきましたけれども、非常に子どもたちが主体的にあいさつ運動をやっているなど。以前西中学校に行かせていただいたら、なかなか挨拶ができない子どもがいて、あるいは参加も校長先生と数名の先生だったんですけれども、今回行かせていただいたら、先生方も校長先生をはじめ多くの先生、また子どもたちも、生徒会の子どもも含めて非常に多くの子どもたちがあいさつ運動を行っていて、私自身は感動した西中のあいさつ運動でございました。

同日、部長会がございました。すでにご承知おきかも分かりませんが、市の職員の不祥事に関して部長のほうに、私も含めてなんですけれども、副市長から指導がございました。

同日、学校訪問を二上小学校で行っております。

また同日、就学指導委員会も行われました。特別支援学級に入るのがいいのか、あるいは通常学級で教育を受けるのがいいのかといった面に関し

まして、専門的な見地からいろいろな話し合いもしていただきました。

また、第2回産業展実行委員会がございました。

さらには、25日に市の美術展の表彰式があったんですが、私は所用がありましたので1日早く市の美術展の作品を鑑賞させていただきました。

25日の土曜日は市美術展の表彰式がございまして、各委員にはご出席いただきました。ありがとうございました。

26日の日曜日は、第62回国民文化祭・第17回全国障害者文化芸術祭の閉会式がございました。奈良県文化会館でございまして、そのほうに出席させていただきました。

27日の月曜日は、学校訪問の最終日として関屋小学校に行っていました。本年度は1カ月半ほどにわたって学校訪問を行ってきたわけですが、委員の皆様におかれましては大変お忙しいなか学校訪問に行っていたこと、改めて感謝申し上げたいと思います。

同日27日は、二上小学校で授業研究があり、また28日は三和小学校で、29日は志都美小学校で、3日間にわたって小学校で授業参観を見させていただいて、二上小学校は特活の授業研究、これは来年度文部科学省の指定も受け、研究発表がございまして。そういった意味も含めて特活の授業、そしてまた28日は県内の先生方が来られた体育の授業、そしてまた29日は志都美小学校で道徳の授業ということで、授業研究が行われました。この3小学校だけではなく、多くの学校でこういう授業参観、授業研究が行われていることは大変うれしく思います。またそれぞれにおいても非常に素晴らしい授業を行っていただいております。

28日は幼稚園の園長会があり、園長会のほうでは教育の日の礼、あるいは年末に向けての事故のないような幼稚園の活動をお願いしました。保護者のなかにはいろいろな意見がございまして、各園の取組みが十二分に保護者あるいは地域のほうに伝わっていない面がありますので、そういった話をいろいろな機会を通じて園長のほうからするようにといった指示もさせていただきました。

30日の木曜日は、奈良県の市町村教育長会議があり、30年4月の教職員の人事異動に関しての方針が発表されました。

同日、総合教育会議で各委員の皆様におかれましてご出席賜りました。市長のほうの司会進行のもとに行われたわけですが、ICTあるいは空調のことについて提案をし、意見交換をしていただきました。ありがとうございました。

月が変わりまして師走、12月1日は、教育委員会事務局定例会議、そしてまた部長等の月例会がございました。また後でも報告させていただきますが、12月は議会あるいは予算の最終的な段階にありますので、そのあた

りのことについて事務局で情報交換を行いました。また、月例会におきましては市長あるいは副市長のほうからそういった話があったんですけども、とりわけ先ほど言いました市の職員の不祥事に関わって市長、副市長のほうから話がございました。

同日、いのちを大切に作る研修会ということで、教育委員の皆様にもご出席いただきました。特に法律的な指導を今回していただいたと思います。学校のいろいろな問題と、法律の問題についてご指導いただいたと思います。

同日、学校長のほうに人事異動の方針を伝えるということで、臨時の校長会を持たせていただきました。

3日の日曜日は、みつわ保育所の建替工事が終わりましたので、その竣工式をみつわ保育所のほうで行わせていただき、来年度から200名の園児を預かるというふうになりました。これも委員の皆様にご出席いただきました。

同日、奈良県の綱引き選手権があり、市の職員がチームを組んで参加しております。男子も女子も準優勝というような報告を聞いております。

また、日中友好のフェスティバルが昼からございまして、そちらのほうにも出席させていただきました。

4日の月曜日から、第6回香芝市議会が開会されました。これにつきましてはまた後でご報告させていただきます。

5日は生涯学習の講演会があり、中木委員もご出席いただいたんですけども、天気についてのご講演がございました。

また同日、ハルナ幼稚園の園児が餅つきをしましたということで、餅を持ってきていただきました。なお、去年はノロウィルス等の関係で餅つきを見合わせたところがあったんですけども、今年はそういったことも配慮しながら幼稚園や、私立も含めて餅つきを行っているところがたくさんございました。

6日の日は議会の総務企画委員会、7日は福祉教育委員会がございました。

また6日は下田小学校のPTA役員研修会について私も出席させていただきましたけれども、少し後ほどご説明させていただけたらと思います。

8日の日は小中学校の校長会があり、すべての学校訪問が終わりました。また教育の日についての礼を言うとともに、年末でございますので教職員の不祥事等のないように、そしてまた懇談等ございますので、保護者の方に丁寧に説明するようにといった話もさせていただきました。

9日の日は、青少年健全育成の市民集会在ふたかみ文化センターであり、子どもたちの作文発表がございました。

12日の火曜日は、特別支援学級の市内の合同学習会がございました。クリスマス会でしたが、非常に今年度も特別支援学級に入っている子どもが多く、ふたかみ文化センターのホールが本当にいっぱい、保護者の方が立って見ていただくといった状況でした。支援学級の子どもたちは歌、あるいは寸劇等を含めて非常にすばらしい発表をしていて、楽しいひと時を過ごさせていただきました。また交流も図れたかなと思います。

13、14日と2日間にわたりまして、市議会の一般質問がございました。そして18日の日は市議会の本会議がございました。

そして19日の火曜日には、人事異動のヒアリングがございました。

そして昨日は奈良県教育サミットが行われ、知事あるいは県の教育長をはじめ、市町村の首長と教育長が参加し、教員の資質向上についての話し合いが行われました。このことについては後ほど議題として取り上げたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

そして本日、第14回の教育委員会会議が行われております。

以上、本日までの私の動静でございました。何かご意見ご質問等ございましたら、よろしくお願ひいたします。

中木委員

今説明を受けたなかで、11月18日の香芝市教育の日、市民の参加者28,800人ほどというご説明をいただいたんですけども、第1回、2回、3回と、こういう流れのなかでどの程度参加者が動いているのかというご説明をお願いしたいということと同時に、現在保育所が教育委員会管轄のなかでも教育の日の該当に当たっていないんですけども、いきなりこれを保育所も一緒にというのは非常に難しいところ、こども園を見ているんですけども、保育所についてもこのような方向が導き出すことができないかといったご検討もこれからお願ひしたいなど、これは私からのお願ひということなんですけれども。以上、よろしくお願ひします。

教育長

ありがとうございます。参加者ですが、第1回目の資料はないんですが、去年は13,324人ということで、今年はその倍くらいになっております。若干カウントの仕方がどうか分からないんですが、3回とも1万人を越え、今年2万人を越えているという、少なくとも人数が非常に増えている現状はあります。

それから保育所に関しましても、今年初めて教育委員会の所管になりましたので、当然年度の当初の計画に保育所も入ってなかったかも分かりませんが、今後またこども課を中心にそのあたりも検討しながら、保育所の参加も進めてまいりたいと思ひますが、もし課長のほうでご意見等がありましたら出していただきたいと思ひますが、いかがでしょうか。

こども課長 保育所のほうも教育の日に合わせまして、同じく絵画のほうは公民館に展示させていただいております。ただ、教育の日が土曜日ということで、実際に保育を行っている日ということもありますので、そういったところも考えながら、参加の仕方というのはまた今後検討していきたいと思えます。

教育長 よろしいでしょうか。他にございませんでしょうか。

三岡委員 同じく教育の日についてなんですけれども、各学校で講演会のほうを開催されているところが多かったんですけれども、昨年石原田委員のほうからもご意見が出たかと思うんですけれども、市のホームページで教育の日をPRしてもらうときに、市内全体で各学校ではこういった講演会が何時から開かれますといった、一覧でぱっと見て分かるようなページを作っていたら、市民の方々もご自身が興味のある講演会に参加できるということに繋がるのではないかと思いました。

教育長 ありがとうございます。私もまったく同感で、ホームページのトップページを見ていたら、更新が新しいものが上にくるものですので、今年は多分、鎌田の認定こども園の分が出ていたと思います。ただ中を見ていたら、予定等も書いているんですが、少しそのあたり工夫もしながら、まさに今言っていたように市民の方にPRするのが、知っていただくのが一番大事なことです。それはまた担当とも相談しながら、ぜひ今後そういうかたちでしていく必要があると思えます。ありがとうございます。

田中委員 11月28日に行われました第2回の給食理事会の内容について、少し説明をいただけませんか。

教育総務課長 当日は給食実施回数のご報告と意見交換会と試食会をさせていただきました。以上でございます。

教育長 よろしいですか。他にご意見等ございませんか。なければ私のほうから1点ご報告させていただきます。先ほど私の報告のなかで12月6日の下田小学校PTA役員研修会の話をしていただきましたけれども、すでに委員ご承知かも分かりませんが、香芝市内におられる岸本亜矢子さんという方のご講演がございました。岸本さんは下田幼稚園、下田小学校、香芝中学校の卒業生で、県立高取国際高校のほうに進学されたんですけれども、交

通事故に遭われて下半身が動かないという状況になっておられます。いろいろな経緯があったんですけども、彼女は現在それを乗り越えて、口で筆を咥えて絵を描いているという、そういう活動をされていて、現在27歳です。それで彼女が、自分が作ったこのカレンダーを見せて講演されました。実は今年第4作目になるんですけども、こういったカレンダーを作っておられます。原画ははがきサイズの少し大きめくらいですかね。実は私そのときいろいろと聞かせてもらった、まずどれくらいかかるんですか。一冊のカレンダーを作るのに、コメントも入れておられるんですけども、口で筆を咥えて書くのにどれくらいかかるんですかとお話を聞いたら、構想を練るのに時間がかかるんですけども、10カ月くらいかかると。書くのもだいぶ時間がかかるようですけれども、毎年今年が最後、今年が最後と思いながら4作目まで来たんですけども。そしていろいろな方にお世話になっているその恩返しとして、これでお金をいただいて自立し、いろいろな方へ恩返ししていきたいという話をされていたのが印象的でした。下田小学校の卒業生でございますので、下田小学校のPTAの役員会のお話されたんですけども、香芝市の市役所におきましても互助会のほうでこういったカレンダーの斡旋をさせていただいているということも聞いております。なおこれはすでに有名になられている星野富弘さんという方が同じく口で筆を咥えて絵を描かれております。群馬県のみどり市に博物館がございます。年間何十万人も来る博物館なんですけれども、このみどり市はうちの二上山博物館の連携しています岩宿のあるところがございます。以前、私はこの岩宿の博物館に行かせていただいて、そこの教育長さんに同じみどり市にあります星野富弘さんの博物館に行かせていただきました。市内のみどり市の子どもたちは必ずその星野富弘さんの博物館に行って、障害者のことについて学んだという話をされたのが非常に印象的でした。岸本さんのほうはまだそこまで行ってないんですけども、私自身は個人的にはがんばっている人を支援できたらなということはおもっております。そのようなことがあったということだけご報告させていただきます。大変長くなりましたけれども私の報告でございます。

教育長 他にご意見ご質問等ございませんでしょうか。

教育長 ないようですので、次の案件に進みたいと思います。

日程5(1)香芝市議会議案の作成に伴う意見の聴取に関する報告及び承認について

教育長 案件(1)承第13号「香芝市議会議案の作成に伴う意見の聴取に関する報告及び承認について」を事務局より説明をお願いいたします。

教育総務課長 ただいま提案になりました、承第13号「香芝市議会議案の作成に伴う意見の聴取に関する報告及び承認について」の提案理由の説明を申し上げます。

本案は、香芝市議会議案の作成に伴う意見の聴取に関して、香芝市教育委員会の権限に属する事務の一部委任及び臨時代理に関する規則第4条第2項の規定によりまして、11月20日付けで臨時代理を行いましたので、その承認を求めるものでございます。

議案の内容に関しましては、前回の教育委員会会議で概要説明をさせていただきました施設型給付に関連したものとなっております。歳入につきましては、教育費国庫負担金として10,522千円、教育費県負担金として5,261千円、教育費県補助金として4,734千円、合計20,517千円の歳入を計上しております。歳出につきましては施設型給付費として33,000千円を計上しております。

何卒慎重ご審議のうえ、原案承認賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

教育長 ありがとうございます。ただいまのご説明につきまして、ご意見ご質問等ございませんでしょうか。

教育長 よろしいですか。では、本件につきましてご異議ございませんか。

各委員 (「異議なし」の声あり)

教育長 異議がないようですので、原案のとおり承認することといたします。

日程5(2)その他報告

教育長 日程5(2)「その他報告」として各課より報告等があればお願いいたします。

教育部長 失礼します。それでは私のほうから、先ほど教育長の動静のなかにもございました12月議会に関しましてのご報告をさせていただきます。12月議会は12月4日から18日までの15日間開会されたわけでございますけれど

も、まず教育部の関連する案件といたしましては、ただいまご審議をいただきました補正予算、これが1件ございました。審議過程のなかで各議員からは今回の補正予算が私立の保育所の防犯カメラの設置など、防犯対策の強化に係る費用の補助でございましたので、公立保育所のセキュリティー対策についてはどうなのかということでした。そのなかで私立保育所との差がおきないように、公立保育所のほうもしっかりとセキュリティー対策等の整備に向けてやるようにというご意見をいただいたところでございます。この件につきましては、他の予算共々可決はいただいております。また専決処分の報告といたしまして、中学校の2校で発生いたしました草刈業務中における事故の損害賠償の額の決定及び和解につきまして、地方自治法の規定により議会に報告させていただいたところでございます。報告ということでございますので、中身の審議というのはございませんでしたけれども、委員よりはご質問のなかで厳しい意見またご質問等をいただいたところでございます。主な内容としましては、保険の適用範囲がボランティアでやっただいているPTAや地域の方がそういった事故に遭われたときは、保険は適用するのかということや、また事故後の今後の対応は、ということで、やはり学校という施設でございますので、児童生徒、子どもたちが被害者にならないような対策をどう考えているのかという質問を2、3いただいたところでございます。事務局といたしましても、これまでも校長会などの機会を捉えまして、口頭でありますとか、また文書をもって注意喚起を行ってございましたけれども、本議会が終わりまして、また各学校には校長会を通じまして、改めて安全マニュアルの作成もいたしましたので、それらの配布と同時に、注意喚起を行わせていただいているところでございます。

他に一般質問がございました。これでありまして、これまで議会におきましては議員さんの約7割、8割くらいは教育関連のご質問をいただいているところでございますけれども、今回は12名のうち2名の方からの質問となったところでございます。内容といたしましては、子育て支援の一括相談窓口の創設についてということで、これは昨年の12月議会におきましてもご提案があったんですけれども、教育部を福祉センターのほうに移して、福祉教育センターというところでの位置付けはどうだというようなご意見もいただいております。それにつきましてはいろいろと調査、研究させていただきますということで終わっております。またもう1つ、教育委員会の事務計画についてということで、これも6月議会から継続しております学校給食の食材の関係の部分と、幼稚園、保育所また認定こども園、これらの民営化について、それにつきましての質問がございました。それぞれにおきましても、私と次長のほうでご答弁をさせていただいてい

るところでございます。以上が、簡単でございますけれども、12月議会での審議内容でございます。ありがとうございました。

教育長 先に他の報告を受けたいと思います。また後で委員の皆様からのご質問があればお受けしたいと思います。他に各課より報告等があればお願いいたします。

市民図書館長 市民図書館より、11月に行われましたものの報告をさせていただきます。市民図書館では「図書館本のまつり2017」と題しまして、10月24日から11月26日まで開催させていただきました。期間中に行いました「香芝の民話紙芝居展」には述べ917名の来場がありました。また、11月11日には「絵本で楽しむ科学の世界」、これは子ども、親子対象でやっておりました。これには25名、54名の参加があり、絵本を使っての石の実験から磁石の不思議、虫探しなど絵本で、親子で楽しんでいただくことができました。また11月26日にはミニコンサートを視聴覚室で行い、琴の演奏家をお迎えして、琴の音色を楽しんでいただくひと時を作らせていただきました。なお、期間中実施しておりました小学生に対してのスタンプラリーですが、好評のため12月27日まで1カ月延長させていただくことになりました。12月には、10月の台風で延期になりました「香芝の旧街道とゆかりの人物」という講座を12月3日、10日と2週間続けてさせていただきました。これは好評につき、また来年もしてほしいという参加者からのご意見をいただきました。12月16日土曜日ですが、午後5時に土曜日は閉館しておりますので、その5時閉館を利用いたしまして、夜、「絵本と音楽を楽しむ夕べ」を午後7時から開催させていただき、ボランティアグループによる絵本の読み聞かせと、大阪教育大学音楽専攻の学生によりますフルートの演奏を、親子約50名で楽しんでいただきました。また来年になるんですけれども、年明け早々1月5日から10日の5日間になりますが、平成29年度第6回子どもの読書活動推進啓発ポスター、これは奈良県のほうでやっている分なんですけれども、巡回展を視聴覚室で展示させていただきます。その展示のなかには優秀作品として香芝東中学校と奈良県立香芝高校の生徒の2人の作品も展示させていただいております。以上、図書館からでした。

教育長 ありがとうございました。他にございませんか。

生涯学習課長 失礼いたします。すでにご案内をさせていただいているところでございますけれども、年を明けましてからの行事でございます。1月8日成人式でございます。10時から開式ということになっております。モナミホール

でございます。参加者には質素で清楚な服装での参加を呼びかけておりますので、皆様につきましても平服でお越しいただきたいと思っております。

そして次に、1月の20日でございます。PTA主催の教育講演会と、その後の懇談会でございます。こちら講演会につきましてはふたかみ文化センターの市民ホールで「明るいオカン(母親)のつくりかた」と題しまして講演。そしてその後、懇談会でございますが、こちらは「学校と地域との繋がりを深めるために」というテーマでコミュニティ協議会の取組みということで懇談会がございます。

あと、こちらはご案内のほうはさせていただいておりませんが、例年実施いたしております1月21日でございます。講演会の翌日でございますが、香芝市マラソン大会が開かれます。こちらは市町村対抗の駅伝大会の選考会も兼ねておるということで、毎年1,000名超のランナーがご参加いただいているということでございます。もし時間があうようでしたらお越しいただけたらと思います。以上でございます。

教育長

ありがとうございます。ちなみにマラソン大会は真美ヶ丘東小学校のグラウンドあるいは真美ヶ丘周辺を走っております。他にございませんでしょうか。

教育長

それでは各課からご報告をお受けしましたが、委員の皆様からご質問等ございましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

教育長

よろしいですか。それでは「その他報告」を終わりたいと思います。少し時間があるようでございますので、委員の皆様にご意見頂戴できたらと思います。まず1点目でございますが、前回の教育委員会会議でも話題になりました教育委員の皆様のご先進地視察ということで例年計画をさせていただいております。特にこういうところがいいんじゃないかなとか、具体的にこういうところがあるということがあれば、少しご意見頂戴できたら、事務局のほうで行き先あるいは日程のほうを調整したいと思います。特にここというご意見ございましたらお伺いしたいと思います。どうでしょうか。

中木委員

先般も就学前教育の基本方針と呼べるようなものが香芝市にはないといったところで、そういった方針をいろいろな経緯があつて固めているというようなところを視察させてもらったというふうには思っておったんですけども、なかなか具体的にどんなところがあるかとなったら、これはもちろん私はよく分からないですけども、事務局の方でも難しいん

じゃないかと、そんな気はしております。そういう方向性を決めるというプロセスを勉強したいなという気持ちはあるんですけども、それ以外に少し違う角度でこういったところを視察したいなと思うところがございます。それは、全国学力・学習状況調査を見て、常に上位を占めている都道府県というのがあります。青森とか岩手とか、あるいは福井、富山。主に日本海周りになろうかと思うんですけども、そういったところを視察できないかなと。実は私が就任する前の委員さんは福井県のほうに確か先進地視察に行かれたと聞いておったんですけども、その時にその委員さんからどんな様子であったかを聞かせてもらって、私の記憶に残っているのが、子どもたちが当たり前のことを当たり前にやるんだと。こういったことを聞かせてもらったように覚えております。当たり前のことは当たり前にやるということ、誰が見ても普通のことでありながら、それを実行できるというそういったものが、どういう背景があるのかなということについて、私は大変興味を覚えております。それは授業だけの話ではないということがあります。先生方がどのような環境で日々暮らしておられるのかという。だから仕事としてやっている分、それからその背景にある行動。同時に地域の方々、それから保護者の方々がどのような環境で子どもたちを育てているのかと。きっと香芝市と随分そういった面での環境が違うんだらうなと思いつつも、そういったいろいろな環境が子どもたちにいい方向に作用する部分があって、安定して子どもたちが常に興味を持って勉強しているといったことが結果に現れているんじゃないかなという気がしているんですけども、香芝市において、その対象となる地域の環境を見て、香芝市の地域環境を見て、どの程度香芝市に反映できるかということとは別にして、自分の肌で感じて香芝市でできることが少しでも増えればいいなと、そういった意味合いで、学力・学習状況調査で常に上位に入っている、そういった地域の実態というのを見てみたいなというふうに思っております。具体的にここがいいとかいうことは別にしまして、そういうふうに考えているところです。以上でございます。

教育長 ありがとうございます。他どうでしょうか。

石原田委員 今、中木委員がおっしゃったことと共通している部分があるんですけども、私立の学校になってしまうのでちょっと難しいかもしれないんですけども、私立の学校ではやっぱり学校経営というのがテーマになってきて、その運営がうまくいかない、本当に廃校とか閉鎖というところにまで落ちたという学校が、先生たちのイニシアチブによって盛り返して、今では超人気校になっているというところを2、3知っております。ここ

では名前は挙げませんが、そこで先生が中心となって、学校を立て直すというところでどういうところがあったのかなというのが私もすごく興味があるところです。学力的にも高い学校になっているということです。

それと、これは情報提供までなんですけれども、STEM教育というのがありますけれども、この前も学校訪問でプログラミング教育ということがありましたが、STEM教育の学会があるんですが、そこで勉強会みたいなことをしていただき、かつその実践されている学校等を訪問するということができますよということで、情報共有ということでさせていただきます。以上です。

教育長 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

三岡委員 私も全国学力・学習状況調査で高い成績を上げていらっしゃるところは非常に興味がありまして、それとも繋がってくるかとも思いますけれども、小学校の英語教育ということに関しまして、2020年度に小学校3、4年生で必修化されるこの英語教育、来年度からちょっと前倒しして一部実施されるという話も聞いておりまして、この小学校の英語教育について文科省の研究開発学校というのが指定されているようなんですけれども、そちらの学校での実際の取組みというのを見てみたいなという思いもしております。奈良県のほうでもされている学校があるんですけれども、例えば郡山市の治道小学校、治道幼稚園、これは幼小連携で取組みをされているということで、こちらは近いですからいつでも伺えるかとは思いますが、他また内容的に興味のあるところがありましたら伺ってみたいなと思っております。

教育長 ありがとうございます。他にどうでしょうか。今各委員から意見が出ました。すべてを対象とできるか分かりませんが、今の意見を尊重しながら、ちょっと事務局で調整させていただいて、また委員のほうにもフィードバックさせていただき、日程等を調整していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。先進地視察に関しましては以上にさせていただきますたいと思っております。

教育長 次に2点目でございますが、今も話が出てきましたが、そしてまた私は昨日にサミットに参加しましたが、テーマが教員の資質向上と、資質をいかにあげていくか。そのことが教育に、いろいろな面で子どもにプラスになっていくという話し合いが昨日もなされましたが、香芝市において全国

学力・学習状況調査の状況と教員の資質向上について議論していただきたいと思います。問題提起ということで、香芝市の学力・学習状況調査について少し抜粋したかたちで学校教育課長のほうから報告をお願いしたいと思います。

学校教育課長 9月の教育委員会会議で、平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の概要を説明させていただきましたが、学校現場の先生に委員として分析、考察をしていただきまして、最終的に事務局のほうで結果分析の概要案としてまとめさせていただいたものを、お手元に置かせていただきました。今回教育委員の皆様から事前にご意見をいただいておりますが、それを踏まえながら、1ページ目、4番というところの下あたりから始まるころなんですけれども、教育委員会としての姿勢を述べさせていただいております。いただいた意見すべてを反映させることはできませんでしたが、今回特筆すべき事項として、下から6行目に書かせていただいております。大学との連携による教員の指導力向上に向けた支援、それから各校での取り組まれている授業改善や生活指導改善の効果的な取組みをお互いに各学校で取り入れてもらえるように、教育委員会のほうからどんどん現場に発信をしていく、ということがあります。この学力・学習状況調査のねらいの1つに教員の業務改善があります。また、今後つけなければならない学力が一体どのようなものであるかが、特にB問題のなかに問題となって出題されており、それを教員が理解をしていくということが目的にあります。また学習状況を把握し、それを指導に活かすということもあります。今回10回目でしたが、この10年間でそのような目的がかなり現場に浸透してきた。そして各校でも授業改善や生活指導の工夫が行われてきているということ、委員の皆様も学校訪問を通してお感じになっているところだと思われま。またこのことは、学習状況調査の質問紙における回答の結果にもかたちとなって表れてきております。ただ学習意欲を表す1つの要素と考えられる教科の学習、勉強が好きであるというところについては、今年度特に算数、数学で大きく改善はされたものの、国語のところではまだ十分と言えないところがありまして、その指導法の工夫が必要と考えられると思います。この結果分析の概要、現在案として出させていただいておりますが、これをまた委員の皆様承認いただき、ホームページを通じて市民の皆様にも発信していけたらと思っております。

次に資質向上についてですが、先ほども少し触れましたけれども、この学力学習状況調査の流れというのがかなり現場に浸透してきて、現場でもかなりそれぞれの学校の分析、考察が進み、それを活かすということが盛り込まれております。若手教員を中心にして、この1年間を見た場合でも、

特に小学校においては、道徳あるいは英語が教科になっていくというあたりで、数多く取り組まれております。市教育委員会のほうからも事務局指導主事が参加し、そこで問題提起などもしながら、かなり活発な討論が行われ、それを活かして日常の授業に活かしてもらうようなことも、特に道徳のほうでは行われました。英語につきましては、今年度西中学校区で行われている小中連携事業ということで、これは英語を通じた連携ということで、講師の先生が元々中学校籍の英語教諭をこの3月までされていた先生で、日常関屋それから二上小学校ということで勤務願っているんですが、夏休みを通してそれ以外の小学校でも研修を行ってもらい、かなり現場の先生から好評を得ることができました。非常に分かりやすく、何をしたらいいかがよく分かっていた。最終的に、ALTも導入していますが、学級担任が英語の授業を行っていくといううえにおいては、指導力の向上は必須事項でございますので、かなりそれに向けての効果があつたと思われまふ。また、学校をあげて、校長先生のリーダーシップのもと、学校をあげて授業改善に取り組む学校もでてきております。あるいはカリキュラムマネジメントというのが次期学習指導要領で言われていますが、それを教科を越えて横断的に見直すということを行った小学校もあります。このように教員の資質向上というのはまずやはり現場においてなされるものだというふうに考えておまして、そのバックアップ、支援を教育委員会としてもいろいろな方法を使って全力でしていきたいと考えております。以上です。

教育長

ありがとうございました。香芝市の現状と資質向上について提案いただきましたけれども、まず学力・学習状況調査の結果分析につきまして案というかたちで出ておりますが、以前からご議論いただいている内容でございますので、もしあとで修正等ありましたらお出しいただきたいと思いますが、特に問題ないようであれば、こういったかたちで学校のほうに下ろしていきたいと思ひます。なお、今すぐ全部見ることはできないと思ひますので、これが終わってからご意見等ありましたらお出しただひいて、なければ各学校に配りたいと思ひますが、その点ご了承くださいませでしょうか。

教育長

ありがとうございます。それでは先ほど提案ございましたことについても結構でございます。あるいは日頃思っていたひいては結構でございますので、香芝市の教職員の資質向上について、より上を目指してと、より良い教育を行うためにということで、フリーのかたちでディスカッションをお願いしたいと思ひます。誰からでも結構でございますので、

ご意見をお願いしたいと思います。

中木委員

今、上谷課長から特に気になっていた、また委員からも意見があった、香芝市でもすごくいいなと、これだったら子どもがどんどん伸びていくんじゃないかなという授業を先日来の学校訪問で見させていただいて、そういったものを教育委員会として市全体に広めようということを今ご説明いただいたんで、非常に結構だなと思いますし、同時に授業研究も今日の教育長の動静でもご説明いただいたように、かなり進んで参加させていただいておることなので、いい方向には向いてくれているなと思う、そんななかで、やはり気になるのが、今上谷課長からの報告のときにも一言挟まっていたのが、若い先生を中心という言葉がありました。学校そのもの、ベテランの先生も含めて、あるいはベテランの先生が引っ張って、そういう新しい方向の授業を推進する必要があるかと思うんですけれども、そこらに対する意欲をもっと持ってもらうような方向を、やはり校長先生を中心に、そういった機運をあげないといけないのかなというふうに思っております。それともう1点、子どもたちが勉強が好きである、あるいは興味深いということが子どもたちが伸びるために非常に必須なものであるということを常々言うておるんですけれども、これは教員、先生方についても同じことではないかなというふうに思っております。それを阻害する要因で一番大きいのがやはり保護者対応が一番メインであるというふうに考えておるんですけれども、そこらを学校組織として、なかには、ときには教育委員会の事務局として少しでも先生方のそういう面での精神的な負担軽減ということがなくなって、結果として先生が保護者との関係も含めて子どもたちを見て、やってよかったなという気持ちになっていけるような環境、これを整備することがものすごく大きいのではないかなというふうに思っております。そういう意味で学校現場でやってもらうこと、それから教育委員会としてやるべきことといったことをこれからさらに進めるといったことが大切なのではないかなというふうに思っております。以上です。

教育長

ありがとうございました。また後で事務局にも話題のなかに入っていたくかも分かりませんが、先に委員さんのほうから、今の意見も含めながらご意見頂戴できたらと思いますが、どうでしょうか。

田中委員

私は今3年目で、いろいろ学校訪問させていただいたなかで、やはり1年目は私自身がよく分かっていなかった部分もあったんでしょうけれども、去年、今年と見させていただいて、非常にいいところが目に付くよう

になったと。それは非常に思います。やはりそのなかでも特に、実際教育現場におけるわけではないので、最終的な子どもに対する効果というのは測りかねる部分はあるんですけども、非常に目を引く授業をされる、いい意味でですね。いい意味で非常に目を引く授業をされているのがやはり増えてきたように思います。先ほどのなかにもありましたように、やはりそういう先生のやり方を、そのままがいいのか、それとも一部取り入れるのがいいのかは別の話としまして、もっともっとやはりそういう部分というのは、学校のなかだけに限らず、市内の他の小学校同士、それこそ中学校と小学校でいいと思うんですが、そういうかたちで活用できるような場というのが教育委員会として何らかのやり方を、仕組みですね、そういうふうなものを教育委員会サイドからやはり準備していく、そういう部分をつくっていくことも大事なかと。1つの学校のなかでしたら同じ学年であったり、上下の学年であったり、いけると思うんですが、やはり他校との交流というかたちになると、なかなか一朝一夕には行かない部分があると思いますので、まずは情報提供というかたちのところからそういうことができればいいかなというのが1つ思います。

それと、やはり非常に思う、逆の意味で1つ思うのが、これから特にICTの機器とか、今導入できるようなかたちで順番に事務局のほうで進んでいってもらっていますが、やはり特にこういうものを活用するようになってくると、今まで以上に多分上手に使いこなせる先生と、少し身構えられる先生というのが、もう少しはっきり分かれてくるような気がします。こういう部分に関して特に早急に何かの研修会と言いますか、段取りをしていく必要が特にあるのかなという部分は思います。あとここにも挙げられていますが、学校には主体的、対話的で深い学びの視点から、学習の質的改善が求められているということなんですが、これは生徒に対する部分でもあると思うんですが、もっともっとやはり先生方同士の対話というのが重要になってくるように思います。あと、子どもたちが学ぶ喜びを味わい、自ら学ぶ意欲を持つことができる。この部分に関してもやはり、おもしろい授業というのは表現的には語弊があるかと思うんですが、やはり例えば授業をやっていて、生徒の、なかには変わった反応と言いますか、少し視点が違うかたちで問いかけてくる子がおると思うんですが、やはりそういうことというのは逆に言うと教員の立場のほうとしてもやはり気付く部分があるのではないかなというふうな気もします。そういうふうな部分から、たとえ少しでもその部分を脱線してでも掘り下げられるようなこともできれば、非常に他の子どもたちも先生方も含めて、授業の内容としては興味を引くようなものになるような気もします。

それとあと資質という部分で、根本的な部分と言いますのか、例えば私

の会社でしたら私の会社特有のローカルルールがあったり、私の業界特有のローカルルールというのがあります。これはある意味少し不文律のようになっています、なかなか少しを変えるというのが非常に大変な部分があります。学校が閉鎖的だという気は私はまったくないんですが、特に若い先生方なんかの場合、できるだけ年齢層の幅のある多様な方のおられるような組織に、できるだけ何らか個人的に参加していただいて、そのなかでいろいろな自分から意見を発信することによって、例えば他の人から反論があったり、逆になるほどという理解を示してもらう言葉がでたり、そういう部分というのは非常にいろいろな意味で研鑽になると思います。できるだけ自分の地元であったり、そういう部分でそういうところに積極的に飛び込んでいってもらおうということが非常に大事なことではないのかなというふうに思います。以上です。

教育長 ありがとうございます。どうですか。

石原田委員 私も先ほどのお二方と意見が本当に共通しておりまして、香芝市の先生はすばらしい先生がたくさんいらっしゃるの、いいところをどんどん皆さんの間で共有していきたいというのと、発信するというのも大賛成です。その方法の1つとして、例えばですね、学校関係なく1つのテーマで勉強会をすとか、簡単にざっくばらんに、軽いものでいいですので、テーマを1つ決めてそれに関心のある先生が集まって勉強会をする。こういう事例を共有する。こういうことでうまくいったんだ、いかなかったんだというような勉強会をして、例えばそのファシリテーターにも先生にやっていただいて、その先生はその分野で非常にお得意と思われる先生にファシリテーターになっていただいての勉強会というものも効果的かなと思ったのと、後は例えばですけどもメンター制度というのがありますけれども、それを学校内ではなくて、どここの先生とどここの先生のメンター。だからちょっと困ったことがあったら相談できるみたいなものを制度としてつくったら、その学力向上というものもありますけれども、ちょっとしんどいこととか問題が出てきたときにちょっと相談できるような人がいるというのが効果が出るときもあるのかなという気はしました。そういうことがある一方で、本当にそういうところに先生が時間を使っただけのように、片一方で日頃からの課題となっております事務の軽減というところですね。それが一方にないと時間が取れないということになると意味がないので、そういう事務の軽減というところで、こちらサイドでの検討できることがないのかと、一方でないと実現が難しいのかなと思いました。事務の軽減というところでいくと、こちらからの対応もありま

すけれども、例えばやっぱり学校サイドにもひょっとしたら無駄な動きとか、そういうのもあるかもしれないので、これも仮にですけれども、まったくの第三者がそこに入って見たときに、この仕事はやっぱりいらないよね、無駄だよねということがひょっとしたら気付くことがあるかもしれないので、そういうてこ入れとか、試みもしてみてもいいのかなというのは日頃から思っておりました。例えば会社での事務作業と、学校現場での事務作業というのは、どこが何が違ってどういうことが言えるのかみたいなどころも私自身も関心があるところでございます。

これはまったく別のところなんですけれども、先ほどから学習意欲のことについてお話があって、いただいた資料の8ページにもグラフが出ておりますけれども、まず「国語が好き」、「算数が好き」というところが低いんだというお話ですが、逆にですが、「算数は役に立つ」とか、「勉強は大切だ」とかいうところの数値が高いということは、子どもたちは勉強すべきとか、必要なものだという認識はあって、好きか嫌いかと聞かればこうなってるというのは、ひょっとするとですけれども、例えば奈良県の場合、塾に通っている割合がもし高いとすれば、その子どもたちにとっては好きか嫌いという判断よりも、それはやるべきものという、勉強はすべきものという感じの印象がひょっとしたら強いのかなという気がしました。だから、例えば横の「国語が好き」とか「算数が好き」の県が同じというのは、例えばそのあたりの奈良と違いがあるかな。子どもたちが学習をしている場というものが学校なのか塾なのか家庭なのか、みたいなどころがひょっとしたら何か関連があるのかなという気はしました。ここに都会がないというのが1つおもしろいところかなとも思ったりもします。ざくっとしたところですが、以上です。

教育長 ありがとうございます。どうですか。

三岡委員 私も皆さんの意見と同じなんですけれども、先生方は本当に皆さん一生懸命授業をされていて、それぞれ学ぶ意識を高くお持ちだと思っております。先生方の教育の課題として、これからアクティブラーニングの視点から授業を改善していかなければならない。あと道徳教育が教科化になる。また、小学校での英語ですとか、特別支援教育に対応した先生方の養成や研修が必要になると思っておりますけれども、それは県の教育委員会のほうでもしっかりした対応はされてくださっていると思いますので、香芝市の教育委員会として何ができるかということになると、やはり今も石原田委員のほうからご意見でましたけれども、先生方の仕事を少しでも軽減していただいて、子どもたちと向き合える時間を少しでも多く取るようにできたらなど

思います。やはりとにかく、またお金の話になってしまうんですけども、大規模校では業務アシスタントを導入して、事務軽減をしていったりとか、あとやはり先生方お一人お一人にパソコンを支給して、本当に事務処理がスムーズに行えるようになるですとか、学校教育の現場の環境ですね。この間からICT教育とエアコンについてはお話を進めていただいているので本当にありがたいと思っているんですけども、先生方も気持ち良く快適に授業をしていただくということが子どものためにもなりますので、エアコンの設置ということも必要になってくると思います。今年度から始まりました定時退勤日の導入ということは、本当に良い取り組みだと思っております。先生方もプライベートの時間を充実していただいて、ストレスを減らしていただいて、先生方が心身ともに健康でないと、子どもたちも元気がでないと思うんですね。やはり私も子どもがおりますので、今日先生がすごく体調が悪そうだったとか、元気がなかったとか、なんかちょっと病気みたいというのを感じたりすると、子どももやっぱり気になりますし、いい影響を与えないと思います。市のほうでも先生方のストレスチェックをしてくださっていると思うんですけども、それに併せて先生方の抱えていらっしゃる問題というのをアンケート形式でも実施していただいて、できたら私たちもそれを共有していきたいと思っております。

各学校いろいろ取り組みをされているんですけども、東中学校での学びあいの授業というのは今年から本当によく進められていると思っております。学校訪問のほうでもたくさんクラスがグループになってみんな教えあうという姿が見られました。娘に聞きますと数学の授業では後半は大抵グループになって今習ったことをみんなでもう1回解き直す、教えあうということで、1年生、2年生のほうはなかなかそれがまだスムーズに行われていないかもしれないんですけども、3年生くらいになると、子どもの意見では、みんな優しいから分からないと言っている子をほっとくわけにはいかないから、みんな親切に教えていると言うんですね。うまくこの取組みが反映されているなど私もそれはうれしく思っております。こういった取り組みを各学校の先生方も共有して、良いところをどんどん取り入れてくださったらなと思います。以上です。

教育長

ありがとうございます。学力の点から先ほど説明させてもらったので、それとの関係でいろいろとご意見頂戴しました。特に今いわゆる働き方改革と言われるなかで、教員の多忙さが、なかなか教育の本来のところに打ち込んでいけないというような弊害があると。そのなかで最たるものが保護者対応であるとの話がございました。事務局のほうでもしそれについて何か意見あればどうですか。事務局のほうで特に学校教育課では非常にご

苦労いただいているんですけれども、言える範囲でお願いします。

学校教育課長　　日頃から教育長が現場にとにかく寄り添えというような姿勢をしっかりと持つようにとおっしゃっていて、我われ自身も思っておりますし、現場のほうもかなりこちらのほうを、言い方は良くないかもしれませんが、頼っていただいている部分もありまして、日常やっぱりどこかしらの学校で何かが当然起こっているわけで、もちろんそれが学校のなかで解決する問題については、それはまったくそれでいいんですが、やはりなかなかこじれていることであつたりとか、やはり第三者が入ったほうがスムーズに運ぶような案件もなかにはございます。そういうところにおいてはやはり常に現場と協力しあいながら連絡を密に取らせていただいております。そのなかで我われのできることということで対応させていただいておりますので、今後ともその姿勢はしっかりと持ってやっていきたいと思っております。

教育長　　ありがとうございます。あと、授業研究についても先ほど話がございましたけれども、学校によつたら先ほどありましたように文部科学省の指定を受けている学校もありますし、どの学校も基本的には校内でテーマを決めて、それについてすべての教員が研究しているというのが現状でございます。ただ私の率直な意見としては、若干中学校の方が一部今出た学校は進んでいると思うんですけれども、基本的には小学校のほうが授業研究が進んでいるかなという感じはします。ただ学校の特質として、小学校の場合はすべての教員がすべての教科を持ちますので、共通の話題が非常に持ちやすいと。中学校の場合はどうしても教科担任で持っていますので、1つの教科になればその教科の先生が中心になるので、なかなか難しいところがあるんですけれども、ただ例えば香芝中学校であれば今道徳を中心として学校体制で研究を進めてくれています。教頭先生が特に中心になっていただいておりますけれども、そのなかで分野と言うのか、テーマをある程度絞って、このテーマに関してはこの先生が担当して、違うテーマに関してはこの先生が担当するという、そういう若干パートで分かれたようなかたちで、より専門的に研究をし、というような試みが行われているんですけれども、それは中学校として取り組みとしてはすばらしいと。どうしても教科担任になったら自分の教科の話し合いだけで、隣の組の先生であっても教科が違えばあまりコミュニケーションが取れないというような状況になるんですけれども、やはり授業のなかにおいて、すべての授業のなかでやっぱり共通するものはあると思うんです。例えば子どもの発言をしっかりと聞くとか、あるいは子どもに考えさせるとか、これは教科の如何

を問わずあると思うんですけども、今までは教師の一方的な教え込み、あるいは子どもにとって記憶ばかりしなければならないと、先生から言われたことさえ守ってたらいいというような状況が今まで教育のなかではあったんですけども、先ほどから話の出ていますように、あるいは今回の学習指導要領の改正に伴って、子ども同士のコミュニケーションを深めていく。あるいは子ども同士がお互いに意見交換をして、より考えていく。そういった学びが今後求められている。それは基本的にはどの教科であっても求められていることですので、中学校においても今後そのようなかたちでの研究がより一層進んでいくべきであろうなど。そのなかで事務局のほうからいろいろ提案をし、各学校において、中学校においても一定の前進があったようには私は思っております。そのことが教員の資質向上に繋がっていくと思うんですけども、先ほどから話のありました若手の先生はと、ベテランの先生はと、いわゆる年齢の、当然教員です为上と下では40近くの年齢差があるんですけども、そのあたり実際事務局で実際行っていたら、若手教員の場合は力を入れているけれども、ベテランはと言うんですけども、どうですか。年齢的なところも含めて。何か事務局で思っていることがあればお願いします。

学校教育課長 我われも現場にいた頃はベテランと呼ばれるほうかもしれませんでした。頭が固いという部分があるのかもしれませんが、決して今現場で行われているのは若手に押し付けるという、そういうことではなく、やはり奈良県の教員の年齢構成から考えて、今後先を見通した場合に、現場には若手が非常に多いという状況にあって、その教員の育成ということが大きな奈良県の教育課題になっていますので、それを見据えたうえでの取組みということであって、授業をやるのは若手だとしても、それを共同して一緒に考えているのは、やはりそのベテランの知見というのは非常に大きな意味を持ちますので、そこは先ほど表現が良くなかったかも分かりませんが、若手だけがやっているということではなく、若手を盛り上げていくと言うんですか、力を付けてもらうためにベテランもともに学んで、やはり若手からベテランが学ぶべきことも多いと思いますし、ICTが導入されていくことによって新たな授業スタイルが出てきたときに、懸念されるのはベテランは果たして、というようなあたりはあるのかもしれませんが、やはりいろいろな先行事例を持たれているところに聞いていましたら、やはりICTを使わないでもしっかりと授業ができるベテランこそICTを上手く活用するというふうに聞きました。だから覚えたり、新しいことに挑戦する気持ちは若手のほうが強いのかも分かりませんが、やはりそういうことをやるにはベースになる部分が必要になってきますので、やはり

そのあたりの融合性というのは今後とも図っていききたいとは考えております。

教育長 ありがとうございます。他にございませんか。

石原田委員 今のお話に関連してなんですけれども、やっぱり学校訪問でも今のお話の一方で課題になっていたのが、ある一定の年齢層のベテランの先生ががさっと抜けてしまうときに、その引継ぎというか継承をどうするかというのも学校現場で一方で問題になっていたかと思うので、先ほどおっしゃっていた通りだと思いますし、引き継げない場合は下を上げるという発想からしたときに、若手の方に力を付けていただくという意味でも、という視点もあるのかなという気がしました。先ほどのテーマのことなんですけれども、教育長のおっしゃっていたように、科目にしてしまうとそのようなになってしまうので、さっきのベテラン、若手というところでいくと、例えば効果的な板書の仕方とかいうのだったらどの科目でもいけるし、効果的な視聴覚のスクリーンの使い方とか、もっと細かいテーマ設定にするとかえってみんなが参加しやすいのではいかなという気はしました。以上です。

中木委員 今の上谷課長のお話と直接繋がるかどうか分からないんですけども、昨年度の先進地調査で三雲中学校に行ったときにICTを使うなかでのいろいろなお話を聞いたなかで印象に残っているのが、やはりツールとしてうまく使う技量と言うんですかね、技能と言うんですか、技術とまでは言えないかもしれないんですけども、これはやはり若手の先生が圧倒的に高いレベルであると。ただ、ベテランの先生もそれを使わないと自分の仕事ができないわけですから使う。そのときにベテランの先生が何をするかと言ったら、若手の先生に使い方を教えてもらおうと。これが日常的に頻繁に行われるようになったということで、結果としてベテランの先生が使えるようになっていくようになるわけなんですけれども、それと別の効果として学校のなかの上下の風通しがものすごく良くなったというのが校長先生の言葉で非常に印象に残っているところなんです。だからICTを導入してうんぬんという、そのなかのいいところというのがそういう面でも見られると。これは同時に授業改善とか、やっぱりICTを入れる根本は授業改善が平行してやられなかったらできないんだということ。これも同じく言われておったわけなんですけれども、授業改善という行為のなかでもやはりベテランと若手の先生方がうまく意見交換して、結果としてベテラン先生の刺激にもなるし、若手教員の底上げになる。そういったところを例えばICTというような、あるいは授業改善というところでうまくやっていけ

たら、今石原田委員もご心配されていた若手のレベルアップという1つの方法にも使えるのかなというのが昨年度先進地視察した非常に大きな私の知恵だなと思っております。以上です。

教育長 ありがとうございます。どうですか、あともう少し。

田中委員 先ほど私は他のいろいろな組織で交流をして自分の意見を言って、人の要するに話を聞いてということを行いましたけれども、何よりも現状から言うとなんかをやろうと思えばやはりどうやって、やはり仕事の取り組み方の改革ができて、そこに出向ける時間をつくることができるかということとは非常に大事なことでやっぱり思うんです。やはりそういう意味でいうと、三岡委員がおっしゃっていたみたいに、例えば職員室のいわゆるIT化と言われるものがどこまで進むか。そういう部分も大事でしょうし、やはりこれから特にICT機器を使うかたちになってくると、教材というものが今までと多分違うかたちになってくるのは当然のことだと思うんです。そういう意味で言えば、例えばそういうものをどうするのかという部分でおそらくサーバーに置いておいて、それが業者のサーバーなのか学校のサーバーか、それとも市役所に共通のサーバーを置くのかという問題になってくると思うんですけれども、そこに例えばいろいろな先生が作られた教材をどこかで一括管理でもできるようなかたちでなっていて、そのなかで積極的に皆さん、こういうかたちになっていっているのにそれぞれがまたそういう教材を作るというのも、否定はしませんけれども、それもある意味重なる部分があるのであれば、時間の無駄かも分からない。そういう部分で共通サーバーなんかにも置いておいて、使いたいと思えばどの先生でも、市内の先生であれば利用できる。そういう誰かが作った教材を利用することと、それを活用してどんな授業をするのかというのは各個人の先生の力量とかスキルとか、ものの考え方とか、ということころだと思うんです。そういう意味で、やはりもっともっと利用できるものはそういうかたちのものを利用して、できるだけやっぱり授業前の準備時間であったりというものを極力減らすことで、やはりもっともっと子どもたちに向き合う時間であるとか、それこそ根本的に書類を減らすべきだろうというのはそれはそれとしておいて、とりあえずそういうことをすれば少なくとも幾ばくかの時間はやはりできると思うんです。やっぱり心に余裕ができないことにはなかなかやはり子どもたちと向き合うことも非常に、難しいと言うと語弊があるんですけれども、やはり少しの余裕が授業のなかで、さっき言ったように、興味を引く脱線をしよと思えば余裕がないとなかなかできないという部分があると思います。なので、そういう

部分でやはりもっともっとIT化、ICT化を進めたなかで、教材の共同利用であって、それをいかに活用するかというのを個々の先生のスキルとして、そのかたちでできた心の余裕と時間の余裕というのをもっともっと他の世界に目を向けてもらって、いろいろな人の意見を耳にすると。それを自分の口から発信できるようになれば、これがやはりいろいろな意味で人間としてのスキルが上がるでしょうし、人間のスキルが上がるということは、やはり教員の育てる部分に繋がっていくと思いますので、ぜひともそういう意味でがんばって予算の確保のほうをお願いしたいと思います。

教育長 ありがとうございます。まだまだ意見があると思うんですけども、せっかくですので事務局も、次長のほうからももしあればお願いします。

教育部次長 発言の機会を与えていただきありがとうございます。委員さんそれぞれがおっしゃっていることはまさに教育委員会事務局の考えと共通しております、今回は私自身はICTを投入するという大きな地殻変動がおき得るような、そういうテーマを学校にこれから与えていきますので、先ほど中木委員もおっしゃったように、いわゆる先輩が後輩に教えるとか、メンティー、メンターとか、あるいはトレーニー、トレーナーとかというような関係が逆転する場面がどんどん出てくると思います。いわゆる本当に学びあいのかたちが、これは教室だけではなくて、職員室にも起きるような意味では大変いいチャンスだと思っています。教材や授業の共有化というのも香芝市版グッドプラクティスと言いますか、香芝市版GPなんていうのも作って、どんどん学校にインセンティブを与えていって、もっとやりたい、もっと自分たちの考えていることを発信したいという、そういう仕組みを作っていないと、ただがんばってやりましょうというようなだけでは、学校もモチベーションが上がりませんので、やっぱりそういうインセンティブを与えていって、そこには予算も与えていく、予算を投入していく、そういう相互関係を作っていないとやっぱり活性化していかないのかなと思います。ですから教育委員会のあり方、支援の仕方もおそらく、今の世の中というか、動きに合ったかたちで変えていかないといけないかなと思います。ぜひIT、ICTというような技術的な部分を活用して、より今の現場と教育委員会のあり方に、そちらも変わっていきたいなと思いながら皆様のご意見を聞いておりました。以上でございます。

教育長 ありがとうございます。部長のほうはどうですか。

教育部長 今ほとんど次長のほうが答えてくれたんですけども、今までいろいろ

とご意見いただいたなかで、ICTでありますとか、エアコンでありますとか、そういった部分につきましては30年度の予算に向けて今しっかりと財政方と交渉させていただいているところでございます。少しでも前進できるようなかたちで取り組んでまいりたいと考えております。昨日、教育長と一緒に県の教育サミットのほうに参加させていただきました。そのなかで事例発表として五條市と明日香村の教育委員会の取り組みというところで、私が印象に残ったのがですね、五條市でございましたら先生方の研修というところに力を入れておられました。例えば今日も視察研修のなかで話がありましたように、いわゆる学力テスト等の上位のところ先生方を研修に行かせていると。五條市でしたら、秋田県がそういった毎年上位のほうに位置付けられている県でございますので、そういったところに先生方を研修として派遣されているというのも実例として報告されましたので、こういったかたちも1つかなどと考えております。当然県費の先生方でございますので、そのあたりは県との調整も必要かと思えますけれども、できましたらそのあたりの予算というもの市のほうで確保できるものならさせていただきますして、先生の質の向上というところにも目を向けていきたいなというふうにも考えているところでございます。以上です。

教育長

ありがとうございます。このテーマですとまだまだ時間が足りないんですが、今回に関してはこれくらいにしたいと思えます。私はいろいろなところで自慢をしているんですけども、香芝市の教育委員の方はそれぞれ担当の小中学校、幼稚園を持っていただいている、そこに直接的に関わっていただいているという話をどこでもさせていただいております。他所はどうこうではないんですけども、どちらかと言えば教育委員の方と学校現場との距離が遠いというのが今までで、そのあたりが教育委員会制度の形骸化と言うんですか、非常に問題になったところであったように思っております。本市におきましたらこういう事務局との話し合いもそうですし、学校現場とあるいは教頭、校長と話していただくというのは、教育委員の皆様にとっては大変なことだと思うんですけども、非常にそのことがありがたいと。そのことをもとにしながら今日の話、先般の総合教育会議においての意見となっており、これは私は大切であり、非常にすばらしいなと思っております。教員の資質向上というのは永遠のテーマでございますけれども、今後ともこういった機会を持ちながら、また事務局ではこのことをもとにしながら、市長部局、財政との話し合いもし、予算獲得にもあたると。このようなことが香芝市の教育がより進んでいく、子どもにとってプラスになっていくんじゃないかなと思います。今日は特に学校教育を中心に教員の資質向上という話をさせていただきましたけれども、生涯

学習においても、あるいはスポーツの面においても同じでございますので、今後ともいろいろな場においてご覧いただいたことを教育委員という目からこういう場でまたご発言いただき、教育行政に私も含めて活かしていけたらなと思いますので、よろしく願いいたしたいと思います。大変貴重なお時間ありがとうございました。ひとまず今日のこの議題については終わりたいと思います。ありがとうございました。

教育長 他に報告等ございませんでしょうか。

教育長 よろしいでしょうか。それでは次回の教育委員会会議の日程を決めたいと思います。

教育総務課長 次回の教育委員会会議は、平成30年1月25日木曜日の午後1時30分からということをお願いしたいのですが、皆様いかがでしょうか。

各委員 （「異議なし」の声あり）

教育長 では、次回の平成30年第1回教育委員会会議は、1月25日木曜日の午後1時30分から開催させていただきます。

教育長 本日の案件はすべて終了いたしました。これをもちまして、平成29年第14回教育委員会会議(12月定例)を閉会いたします。皆様方におかれましては、長時間にわたりまして、慎重ご審議ありがとうございました。

（午前11時7分 閉会）